

氏 名	中 野 広 輔
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3239 号
学位授与の日付	平成18年9月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系小児神経学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	A Developmental Study of Scores of the Boston Qualitative Scoring System (Boston Qualitative Scoring System得点の発達変化)
論文審査委員	教授 森島 恒雄 教授 荻野 景規 助教授 氏家 寛

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Boston Qualitative Scoring System (BQSS) は Rey-Osterrieth Complex Figure (ROCF) の評価法の一つで、描画方法の解析により豊富な定性得点と定量的要約得点が導かれる評価法である。この研究では、BQSS の要約得点の小児期の年齢発達について検討した。対象は健常小児 100 人で、個別に ROCF を実施し BQSS マニュアルに基づいて採点した。6 種類の要約得点について 6～7 歳群、8～9 歳群、10～11 歳群、12～16 歳群の 4 つの年齢群に分けて群間有意差を検討した。結果は、6 種類の要約得点のうち 5 種類の得点が年齢発達を示し、またそれぞれの発達パターンが異なっていた。これらの得点は、異なった心理プロセスを反映している可能性が高く、様々な高次機能障害を伴う小児の発達障害の臨床に応用できると考えられる。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、Boston Qualitative Scoring System (BQSS) を用いて、小児の脳高次機能障害の評価法の作成をめざしたものである。BQSS は、視覚認知力を評価する Rey-Osterrieth Complex Figure(ROCF) の評価法の一つで、成人領域では広く用いられている。6-12 歳の健康小児を年齢別に 4 群に分け、マニュアルに基づき、模写、直後再生、遅延再生の 3 つの ROCF の各条件において、描画の正確さや位置的確さなどの様々な基準から、6 種類の score について判定した。結果は、健康小児の年齢別 4 群 (6-7、8-9、10-11、12-16 歳) において、加齢による発達を有意に認めるという重要な知見が得られた。今後さらに解析症例数を増やせば健康小児の基準値となり、現在、問題となっている小児期の脳高次機能について、種々の障害児に今後応用ができると思われた。

以上から、本研究は価値ある業績と認める。

よって、本研究者は、博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。